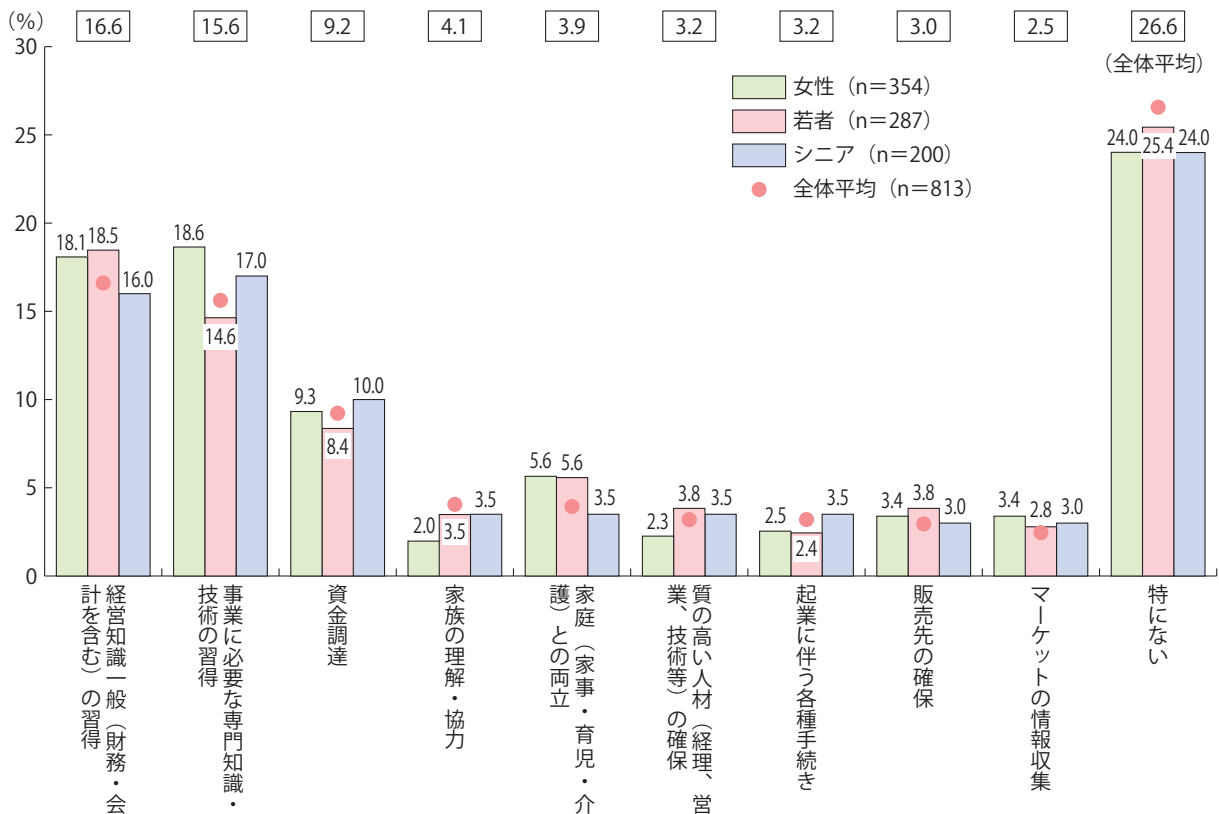


第3-2-20図

初期起業準備者が直面している課題



資料：中小企業庁委託「日本の起業環境及び潜在的起業家に関する調査」(2013年12月、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株))

(注) 1. 回答した割合が高い10項目を表示している。

2. 初期起業準備者が直面している課題について1位から3位を回答してもらった中で、1位として回答されたものを集計している。

(3) 起業準備者

●起業の準備に踏み切ったきっかけ

次に、起業準備者の実態について分析する。第3-2-11図にも記載したように、起業準備者は「起業に向けて具体的な準備をしている者」と定義される。

この段階まで進んだ者が起業家になる確率として、「起業の実現率」という数値を定義したい。この数値は、第3-2-1図の起業準備者と起業家の割合から算出され、起業準備者のうちどの程度の割合が起業を実現するかを表す数値とする。2012年において起業準備者が41.8万人、起業家が22.3万人存在しており、起業準備者のうち約半数が毎年起業していると推計される。起業の実

現率について過去からの推移で見ると、起業準備者の数が減少しているにもかかわらず、起業家は大きく減少していないため、起業の実現率は増加傾向にあることが分かる。また、GEMのデータを用いた調査から、起業活動を計画した人が実際の起業に至る割合が、欧米に比べて日本において高いことが報告されている¹¹。こうした高い起業の実現率を有する起業準備者を増やすためにも、初期起業準備者が起業準備者に移行するきっかけを把握することは重要である。

では、実際に具体的な起業の準備に踏み切ったきっかけを見てみると(第3-2-21図)、「働き口(収入)を得る必要」、「周囲の人の勧め・誘い」、「一緒に起業する仲間の存在」を回答する割合が高い。

¹¹ 「日本の起業活動の特徴は何か—グローバル・アントレプレナーシップ・モニターに基づく分析—」日本政策金融公庫総合研究所上席主任研究員 鈴木正明 (現文教大学教授) http://www.jfc.go.jp/n/findings/pdf/ronbun1305_02.pdf